

# 北上横田町の今昔

北上横田町と聞かれても皆さん城東地区のどこにあるかご存知でしょうか。

当町会は和泉町と岡宮神社の通りに挟まれた一角にあります。



(地図参照)

昭和30年代の後半には戸数130戸以上、組数24組、沢山の子供が遊ぶ活気がある町でした。当時の町会では町会長選挙も実施された記録が残っています。町には八百屋さん、豆腐屋さん、食料雑貨店等があり生活感があふれていました。また、岡宮神社大祭、四柱神社大祭では今でも舞台小屋にある山車に子供ら

# 城東

● 城東地区 ●
1930 世帯
男 1816 人
女 1947 人
合計 3763 人
H 28.9.1 現在

が乗りこみ、大人が綱を引き、祭りに乗りこんだものです。

では、現状はどうかという  
と、町会戸数は60戸を割ってしまい組数は12組です。更に来期からは8組に編成し直す予定です。戸数が減ると共に町会の人口が激減し(最盛期の3分の1以下)、高齢者の夫婦だけの世帯、高齢者の一人住まいの世帯が増えています。

今、町会の悩み事は、町会役員のなり手がいないことです。一人で何役も兼任したり、同じ人に20年近く同じ役職をお願いしているのが現状です。町会員の減少のうえに勤労者の定年が延び、仕事と役員との両立が難しくなっているようです。特に、本年は民生児童委員を推薦しなくてはならず本当に苦労しました。もはや町会で民生児童委員を選出することは、無理になってきていると思います。

それでも当町会が他町会に誇れることがあります。当町会には稲荷社があり道祖神

祭、初午祭、御位日の三つの祭事を続けてきたことです。町会員の親睦と連帯に大いに寄与していると思います。

町会が現在、力を入れていくことは、公民館広場の花壇です。事の始めは4年前現町会長が芝桜を広場に移植したことでした。芝桜が広場に広がる春にはとても美しく咲くようになりました。そこで四季を通じて花が咲く広場にしようとして花壇を作りました。公民館活動費の一部で花の苗を購入し、また市から春と秋に配布される花の苗を植えて公民館広場の美化に務めています。町の住民が公民館広場を訪れたとき、ほんの少し気持ちや和らぎほっとしてくれればと思っています。(清澤)



公民館 広場の花壇

# 女鳥羽町の気寄り

日の出が早くなった五月の朝、チリンチリンとリンの音が町内に鳴り響く。これは毎年五月から十月までの半年間、毎月一回行われる町会の一斉清掃に集合する合図である。この一斉清掃は六月と九月に実施される市全体での催しがある時は六時より、そうでない月は六時半より作業を開始している。場所は女鳥羽川と、めとば公園を中心に実施している。

このリンの音を聞くと三々五々各家の戸口が開き、町会の皆が朝の挨拶を交わしながら集りだす。中にはリンの鳴っている時に既に作業をしている熱の入った人も居る。もつともこの一斉清掃の年間日程表は衛生部長が前もって全戸配布してあるので皆承知している。当日は自分の担当場所に行き、有志によって事前に草刈機で除草された草や、つつじ等の植込の枝落しされたものの回収及び除草されずに残った草の取除きを各自それぞれ始める。清掃がどんどん進んで最後に片付いた一帯を皆で一緒に見ることは楽しいものだ。お互いに言葉

を交わし合ったりして結構交歓の場となっている。

町会の皆が一堂に顔を合わすのは一斉清掃の時だけではない。町会では新年会・日帰親睦旅行・定期総会後の懇親会等が有ってそれぞれ盛況である。これに加えて最近「お茶会」「居酒屋」が出来た。これは公民館長が提案したもので、お茶会は昼間、居酒屋は夜開催している。この開催には、どちらも参加者調べをするのではなく、ただ開催案内を出すだけである。

開催の当日、参加者は家にある茶菓子や酒のつまみ、酒類を持って来て少々の木戸銭を払い大いに楽しむ。新鮮さもあって大盛況だ。

この催しの集り方は「お茶会したい者この指とまれ」「居酒屋したい者この指とまれ」と云って人差し指を立てたら大勢集り、この成功に安堵し、参加してくれた人の気寄り良さを再認識した。

当町会は何をするにもこの姿が何え嬉しいことである。町会活動の基本はこの気寄りであると考える。これからもこの「気寄りの良さ」を大切にますます守り育てて行きたいものだ。(都筑)

# 女鳥羽町の 生い立ちと歩み

## ● 川の名称 ●

三才山峠からの流れを源流とする一級河川女鳥羽川の名前の由来は、江戸時代の初め頃迄は「めとうだ川」と呼ばれていたが、寛文九年(一六六九年)松本城主水野忠直が、玄向寺の裏山に父忠職の廟所を造った際、廟所の横にめとうだ川に通じる小川があり、其の上流に三つの滝を造り(現在は無いが)、この滝を京都の清水寺の山中から湧き出る音羽の滝になぞらえて女鳥羽の滝とし、以後めとうだ川から「女鳥羽川」と呼ばれる様になった。

## ● 道路と太田有親 ●

明治四十年市制の発展から、大正時代に成ると旧城下町の外側にも新しい町々が形成され、其の一部として大正十二年(一九二三年)に、「戦国時代」は城郭から北東に位置し、総掘りと伴に廓を守る川沿いの為、川の伏流水により葦や水草が生えた湿地帯・沼地で寂しい地域で有ったが、将来の利便性を見据えての道路開発が、旧松本藩士太田家(浅野家同様に松の廊下

で抜刀し改易された水野忠恒の後、赴任した城主戸田光慈に仕えて以来、家老・奉行等の要職を務め、大政奉還で大名町から転移)の太田有親北上横田区長が中心となつて、北は木造大日如来像(松本指定文化財が安置)の大安楽寺入口から葭町の交差点まで約四百メートル、幅約七メートル(現在も当時のまま)を同年内に着手完成させた。

## ● 女鳥羽町の語源 ●

町名について昭和八年発行の松本市史によると「すでに道筋を描き、開発が模索されていた頃で、町の東側に沿って女鳥羽川が流れ、川の名前を残す町として女鳥羽町と任意的な呼称を大正十二年の開道道路委員により発案された」と記載されている(松本市行政区画認定は昭和三年頃)。

## ● 町が誕生した年 ●

町の誕生は大正十二年、同年九月一日にはマグニチュード七・九の相模湾北部を震源とする海溝型の関東地震(関東大震災)が発生、甚大な被害をもたらした年。また、この地震にちなみ、九月一日は「防災の日」が制定された。

## ● 開道碑と町会長 ●

初代女鳥羽町区長(昭和二十二年から町会長)には、初代松本市長小里頼永から太田有親が任命され、開道碑は大正十三年に建立される。裏面の碑文に金千四百五十八円の寄付金者名簿と土地寄付者名簿が刻まれ、現太田家の駐車場入口に存在しています。



開道碑

## ● 町内の変遷 ●

昭和二年頃には道の両側に家々が建ち始め、活気溢れる町が見られた。昭和二十九年四月、積年の願望で有った町会の「公民館」が開館し気軽に有効利用が可能となる。

昭和三十四年の伊勢湾台風は、女鳥羽川を氾濫させ、甚大な被害を受け松本市に災害救助法が適用された。

「住居表示法」で、昭和四十年九月一日に松本市は市街地に対し新町名を発令。女鳥羽町も二分されたが、従来の人的交流や城下町(新町、枝町、小路)の呼び名が消える面から、住民の反対が多く、市は要望に沿って、住居表示

による「新町名」と「任意団体」として旧町名との二本立てで存在させた。平成七年、斜弦橋の「元女橋」開通、歩行利用に役立つ。「女鳥羽町会」も今年で九十三年目を迎え、大安楽寺付近の僅かな世帯から、百三十余世帯(準世帯を除く)に発展を見るに至った。(矢島)

## 山の日制定記念カラオケ大会 暑さ吹き飛ばす熱唱

連日の猛暑の中、八月十日の午後、城東地区夏祭りの一環としてカラオケ大会が盛大に催され、前もって応募された25名の歌唱者が、自慢の咽を次々に披露し、盛んな拍手を浴びた。



自慢の歌声を披露



熱唱する参加者

途中、全員でアコーディオンやキーボードの伴奏で何曲かの懐かしい山の歌を合唱し、山の日制定記念に華を添えた。

また夕方からは、浅間温泉の「若獅子太鼓」の勇壮な演奏で懇親会がスタートし、早くも来年のこのイベントの趣向について、主催者・参加者双方の熱く率直な話し合いがされていた。(征矢野)



若獅子太鼓の演奏